

FM の書棚 から

第22回



豊田武史氏
日本ヒューレット・パッカード株式会社
グローバルリアルエステート本部
CREマネジメント 部長

日本ヒューレット・パッカード株式会社(日本HP)の豊田武史さんは、世界トップのIT企業であるヒューレット・パッカード・カンパニーのリアルエステート戦略に基づき、日本国内のオフィス計画の立案と実行に責任を持つ立場にあります。グローバルとローカルという、必ずしも目標の一致しないカテゴリーの両方を担当しながら、どちらのニーズにも満足する答を求めていくには、やはりオフィスづくりの原点である「人」を忘れてはいけないといえます。そして、人を活用するオフィスを考えていくヒントになった本を紹介していただきました。

●プロフィール

名古屋大学工学部建築学科卒業。米カーネギーメロン大学芸術学部建築学科修了。1984年、大成建設入社。設備設計にてシステム開発・情報化・企画・FM等を担当。2000年、日本HP入社。新八王子事業所のPMを担当後、様々な標準化により社内プロセス改善に努める。2005年以降の本社移転を含む一連の大規模なオフィス統廃合ではマスタープランとPMを担当し、大幅なコスト削減とワーク環境改善を両立させる。現在は、2011年完了予定の新社屋建設プロジェクトのPMとして、斬新なコンセプトに基づくオフィス構築を目指す。JFMA品質評価手法研究部会委員(1995-97)、建築業協会(BCS)LCE特別委員会事務局(1997-99)、第21回ニューオフィス推進賞(2008;日本HP中部支店)。

オフィスは「人」のためにある 「人」は楽しい職場で生きる だからFMは「人」を中心に考える

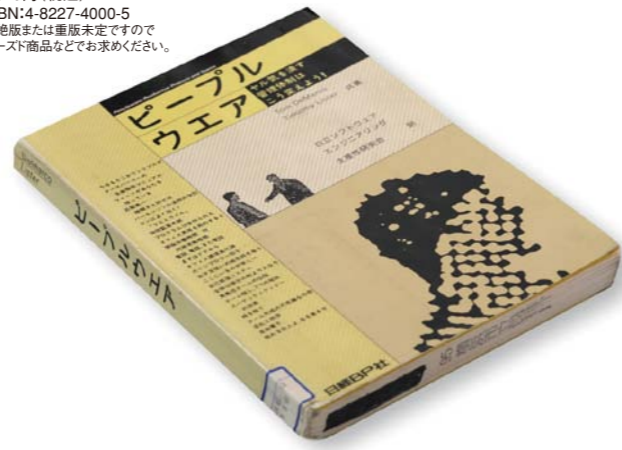
フィッシュ! 鮮度100%びちびちオフィスのつくり方

スティーヴン・C.ランディン+ハリール・ポール+ジョン・クリステンセン/著、
相原真理子/訳
早川書房
2000年12月発行
1,260円(税込)



ピープルウエア 働きやすい職場をつくる人間関係の極意

トム・デマルコ+ティモシー・リスター/著、
日立ソフトウェアエンジニアリング生産性研究会/訳
日経BP出版センター
1989年2月発行
2,940円(税込)
ISBN:4-8227-4000-5
※絶版または重版未定ですので
ユースト商品などでも求めください。



※同じシリーズには以下の本もあります。
**ピープルウエア
ヤル気こそプロジェクト成功の鍵 第2版**

トム・デマルコ+ティモシー・リスター/著 松原友夫+山浦恒央/訳
日経BP社 2001年11月発行
2,310円(税込)
ISBN:4-8222-8110-8

▼「FMの書棚から」の下記バックナンバーは<http://www.websanko.com>をご覧ください。

- | | | | |
|-----------|---|-----------|--|
| ●09年 II号 | 知識創造時代の行動、組織、経営を支援するクリエイティブ・オフィスを実現していくには広い視野で「働き方」を見直していく必要がある 長坂将光氏 | ●06年 II号 | 世界中で多くのファシリティマネジャーを育てた「教科書」とも呼べる本を手にするにはFMを基礎から学ぶうえで大きな意味があるはず。 松岡 利昌氏 |
| ●08年 IV号 | 人は空間との関係によって行動を変えることをわかってデザインしなければ「オフィス民度」は高くなっていかない。 李 泰久氏 | ●05年 IV号 | FMを学ぶために必要なは事例、データ、理論をバランスよく知ること「社会人としての勉強法」を確立していくことだ。 川村 裕氏 |
| ●08年 III号 | 世界中のファシリティマネジャーにとって共通の知識になっている入門書と予章に関する技術を解説した実用書。 全 英範氏 | ●05年 III号 | ハードウェアのスペックを向上させるだけでなくユーザーへのサービス品質を高めるのがファシリティマネジメントの本質である。 熊谷比斗史氏 |
| ●08年 II号 | 経営にとって「ファシリティ」とは、「場」とは何か? その本質を掴むヒントを幅広い読書から得る。 似内 志朗氏 | ●05年 II号 | そう考えて実践してきたことがFMの生きた教科書になった気がする。 小山義朗氏 |
| ●07年 IV号 | プロダクトからオフィス、メディアまでユニバーサルデザインを推進していく「原点」になった2冊の本との出会い。 加藤公敬氏 | ●04年 10月号 | ファシリティマネジメントのFとMを解説 成田一郎氏 |
| ●07年 III号 | FMを基礎から学べる「教科書」とFM資格試験講座への参加がこれからの総務としての仕事のやる気を与えてくれた。 志牟田 章氏 | ●04年 7月号 | 日本人には日本人に合った椅子がある。ファシリティマネジャーの視野を広げさせてくれる新文化論 石井龍彦氏 |
| ●07年 II号 | FMはコスト管理だけが目的ではありません。ワーカーが満足できる施設を実現するにはサービスの本質を理解する必要があります。 菅野 誠氏 | ●04年 4月号 | FMの発祥地である米国の解説書に学ぶ施設の運営管理に必要な「手法」と「知識」 加藤達夫氏 |
| ●06年 IV号 | FMのスペシャリストになるということはインフラのソフトウェアを担うのだから強い信念と豊かな教養をもってほしい! 池田芳樹氏 | ●03年 11月号 | グローバルな競争力が発揮できない企業は昔の日本軍と同じ「敗因」を抱えている 中津元次氏 |
| ●06年 III号 | ファシリティマネジャーは広い「知識」に接しさらに「見識」へと深めなければ大きなプロジェクトを完遂することはできない。 小林 茂允氏 | ●03年 9月号 | まずオフィスコストを正確に把握すること初心者でもFMが理解できる貴重な解説書 山下晶章氏 |
| | | ●03年 7月号 | 歴史からPMや管理会計の教科書まで多様な本がFMの知識を深くしてくれる 小林茂良氏 |
| | | ●03年 5月号 | ワークプレイス戦略の重要性を経営者にアピールする「虎の巻」 小田晃古氏 |
| | | ●03年 3月号 | IBMの情報化戦略は知識社会の到来を予測していた 松成和夫氏 |

■ グローバル戦略とローカルなオフィスづくり

日本ヒューレット・パッカード株式会社(日本HP)は米国ヒューレット・パッカード(Hewlett-Packard Company)の日本法人ですから、本社の方針に基づいてリアルエステート戦略を展開しています。つまり、グローバル→リージョナル→ローカルという明確な階層構造があるわけで、これは国際的に事業を展開している企業ではあたりまえでしょう。

だからといって、すべてが中央のコントロール通りでは、正しい施策は行えません。特にオフィスづくりは、そこで働く人の志気に直接関わってくる重要なテーマだけに、現場の状況を考えた適切な判断が求められるのです。

今回は、そんな「オフィス担当者としての課題」に直面したときに、役立つ書籍を紹介いたします。

■ 楽しいオフィスは生産性も上がる

最初の『フィッシュ!』は、社内の総務・施設関係者向けの研修で使用されたこともある本です。オフィスのつくり方に関する解説書でありながら、まったく異なる世界の「発見」から物語が始まっています。

舞台になっているのは米国シアトルの魚市場。そこは活気に満ち、みんなが楽しそうに働いています。著者たちはその理由を探りながら、ちょっとした工夫で職場の雰囲気良くなり、モチベーションの向上につながることを知るのでした。

例えば、その市場では商品である魚がビュンビュン宙を飛びます。そういうパフォーマンスを取り入れることでお客様も集まり、演じる店員たちも楽しくなってくる。そういうことの積み重ねが、職場の雰囲気を良くしていくのです。

「トイレはキレイに使いましょう!」という貼り紙を巷のトイレで良く見かけます。しかしそんな注意は行動に影響しないし、読んだ人も不愉快になるだけ。それに対して、最近見かけるようになってきた的やハエのシールには遊びがあります。的ができたことで周囲の汚れが少なくなる。ハエ一匹が人々を楽しませ、同時に問題を解決してくれます。

ありきたりの、つまらない、意味不明なメッセージがオフィス内に溢れていますが、それらは何の問題解決にも貢献しておらず、オフィスの美観を損ねているだけでなく、不快感すら与えています。それに比べてハエのシールは遊び気分が効果をあげられる。そういう遊びをオフィスにも取り入れましょう、発信するメッセージにも一捻り加えましょう、そして社員に「ウォ」と言わせるような驚き・感動を与えましょう、というのがこの本の提案です。

本の中に、イキのいいオフィスにする4つのコツが紹介されています。これらのアイデアの良いところは、決してお金をかけなくても済むところですね。要は気の持ち方。しかしそれだけでもオフィスは大きく変わり、モチベーションアップや生産性向上につながるという点が、現場のオフィス担当者にとって、大変、役に立つのです。

【イキのいいオフィスへの4つのコツ】

- 態度を選ぶ
つねにポジティブな姿勢で出社するように心がけること。
- 遊ぶ
オフィスが活気にあふれるような遊び方を取り入れることが大事。
- 人を喜ばせる
顧客や同僚に対してエネルギー溢れる楽しい雰囲気と接しよう。

●注意を向ける
人があなたを必要としている瞬間を逃さぬよう、いつも気を配ろう。

今日からあなたのオフィスも生まれ変わる!
(『フィッシュ! 鮮度100%びちびちオフィスのつくり方』より)

■ 大切な「人」のためのオフィスを!

2冊目の『ピープルウエア』はずいぶん前に読んだ本ですが、ビジネス書としては最も感銘を受けた書籍の一つですし、周囲にも「これはいい本だ」と絶賛する人が大勢いますので、発行されてからずいぶん経っているのですが紹介させていただきます。

本書で語っているのは、「開発プロジェクトで大切なのは技術よりも人間だ」という実に当たり前のことです。ところが、経営者や管理者は往々にしてこの事実を忘れてしまいます。

正確にいうと、「人」は技術やプロセスと並んで大切なのに、技術やプロセスよりも大事にされないことがある。単に人数合わせをすればいいと思いがちなのです。

同じ仕事をしていても、一人ひとりの人格を尊重しているかどうか? 頭を使う人間にふさわしいオフィスであるかどうか? 人材の選び方や育て方がちゃんとしているか? チームは結束しているか? みんなが楽しく仕事をしているか? といった項目を満たしているかどうかで、結果には雲泥の差が出ます。そしてやっぱり「楽しいオフィス」が生産性を高めるという、『フィッシュ!』と同じ結論になるのですね。

この本を最初に読んだとき、私は建設会社でシステム開発を含む設計本部の情報化の仕事に就いていましたが、ファシリティマネジメントに携わるようになった今読んでも、非常に新鮮に感じます。そして、施設を活かすにも人の問題が重要なのだと、改めて気づかされたのです。

今はコンピュータ会社でオフィスの統廃合プランの立案と実行を担当していますが、グローバル戦略とローカル施策の両方に関わっていく中で、発想の原点は常に人に置くべきだと感じており、この本の内容が役に立つと感じます。

オフィスはそこで働く「人」のためにあります。ですから、社員にとって良い環境をつくるのが私たちファシリティマネジャーの忘れてはいけない使命であって、上から命じられた通りにスペースの削減を進めるだけが仕事ではないのです。グローバル戦略とローカルの現場の橋渡しをするのが我々の重大な役目ですから。

『フィッシュ!』でも『ピープルウエア』でも、人が楽しく働くためにはそれぞれの資質や個性を尊重し、発揮させてあげることが重要だと訴えます。そこから具体的なオフィスを発想していくなら、これからのワークプレイスはいろいろな働き方を可能にした多様なスペースの重なりといった形になっていくのではないかと気がしますね。

日本HPでは現在、新たな事業所の建設計画を進めています。ここではさまざまな新しい工夫を盛り込み、これまでとは全く違う、驚きと発見のある楽しいオフィスにするつもり。これらの本で学んだ知識は、必ず活かされるはずですよ。

「フィッシュ! 鮮度100%びちびちオフィスのつくり方」は、本誌「オフィスマーケット」2006年6月号「オフィス文化論—「文化」が違えばオフィスも違ってくるはず」の中でも紹介しています。

<http://www.websanko.com/officeinfo/officemarket/bn-year/2006.html>